

【只見町】

2019年度 ユネスコエコパーク関連事業

2019年度 第1回「只見子ども藝術計画」を実施！

2019（令和元）年10月7日（月）、朝日地区放課後子ども教室の子どもたちを対象に、「只見子ども藝術計画」が実施されました。講師にアーティストの岩田とも子さん、福島県立博物館の専門学芸員の小林めぐみさんを迎え、朝日小学校の小学1～2年生8名が参加しました。ワークショップのテーマは「ブナの森の道具屋さん」です。只見町の子どもたちに町内のブナの森に訪れてもらい、森に潜んでいる生き物たちの暮らしを想像し、その生き物たちが使うかもしれない道具を只見の自然の恵みを活かして創作してもらうワークショップです。

今回は、今年度の第1回目の実施となります。まず、子どもたちにブナセンター指定のただみ観察の森「下福井のブナ水源林」を訪れてもらい、散策しながら「ブナの森の道具屋さん」の道具の材料になりそうな自然素材を森の中で探してもらいました。岩田さんからは、子どもたちが材料を探す際のヒントとして『ひも みたいなもの、つつめ そうなもの、おもしろい形』などのキーワードも伝えられました。

子どもたちは、森の中を歩きながらそれぞれ興味のあるもの（葉っぱ、枝、根っこ、果実、種子、きのこ、など）を採集しては、袋に詰め込んでいきました。途中、ブナの森では、静かに耳を澄ませ、森に生息する生き物たちを想像してもらいました。観察の森での散策を終え朝日振興センターに戻ると、子どもたちが採取してきたものを、自分で床に広げ並べてもらい、どのようなものを持ってきたか確認してもらいました。それぞれ採集してきた自然物の種類や数は異なり、それらの並べ方も個性に溢れていました。

第2回目は、10月17日（木）、朝日振興センターにて開催され、ブナの森の道具屋さんが使う道具を考えるワークショップが予定されています。



ワークショップを説明する岩田さん。



下福井の森で自然素材を採取する。ユキツバキが人気。



ブナの森の前で耳を澄まし生き物の気配を想像する。



お地蔵さんにお供え物をして森とお別れ。



朝日振興センターでのワークショップの開始。



活動内容をやり取りする岩田さんと子どもたち。



森で採集したものを思い思いに並べる。



どんなものがあつたかチェック。



子どもたちの個性に溢れるワークショップになりました。